

○令和5年度 北海道「体験の風をおこそう」運動推進事業

「青少年教育者のための冬のSTEP UP セミナー～冬アクティビティ編～」
(R5.12.25 (月)～26 (火)【1泊2日】)

青少年教育者のための 令和5年度

冬のSTEP UP セミナー

冬アクティビティ編

スノーシュー スノーチューブ 雪板 エアボード

【講師紹介】
濱谷 弘志 氏
 北海道教育大学岩見沢校 准教授
 自然の中でのアウトドア活動による教育効果について研究。野外活動の指導者に必要なハードスキル(知識・技術)、安全管理能力の向上、自然環境保護のための環境倫理習得など、実践力の育成を行っている。

小倉 博昭 氏
 丘のまちびえい DMO
 美瑛のツアーガイド、丘のまちびえいインタープリテーションガイド認定プログラムの「マスターガイド」、十勝岳ジオパーク認定ジオガイド。風景の案内だけでなく、美瑛の成り立ちや自然環境、そこに生活する人々の想いも伝えている。

○実施日(1泊2日)
 12月25日(月)～26日(火)

○研修内容:利用者(青少年)に冬のアクティビティを提供する際に必要な知識や安全管理について学ぶ!!

○対象:青少年教育施設職員、社会教育関係者、学校教育関係者 など

○申込:11/24～12/13

○参加料:2,000円

「体験の風をおこそう」事務局

◆目的

冬のアクティビティを利用者に提供する上で必要な知識を実際に体験することで学び、実践力を高めるとともに、安全管理の重要性を理解し、活動時における配慮事項などを学ぶ機会とする。社会教育を進めていく上で必要な能力として期待されるファシリテーションやワークショップ等の理論と実践力を高める機会とする。

◆参加実績(定員 20名)

参加 7名

- ・ 国立施設職員 2名
- ・ 道立施設職員 3名
- ・ 市立施設職員 2名

◆プログラム

①「冬のアクティビティの安全管理について」(45分)

【講師:北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷弘志氏】

安全管理とリスクマネジメント全般について講義を通して理解するとともに、冬季の体験活動で起こりやすい問題について、対策を踏まえて学ぶことができた。

②「スノーシューハイクの実践」(120分)

【講師:丘のまちびえい DMO マスターガイド 小倉博昭氏】

実際にスノーシューを履いて森の中に入り、ガイドの手法、樹木の種類や動物の生態について学んだ。

③「スノーシューハイクの振り返り」(60分)

【講師:北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷弘志氏】

自分が引率者となり参加者を集めてスノーシューハイクを行ったと考えた際に、どのようなリスクがあって、どんな対策をとることができるかをグループごとに意見を出し合いまとめた。



④「ケーススタディ～冬アクティビティ編」(60分)

【講師：北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷弘志氏】

実際に小学校で起こったスキー事故を題材に、どの時点でどのような対応をしておけば事故を防ぐことが出来たのかをグループで話し合い、全体で意見を交流した。



⑤「冬アクティビティの実践」(120分)

【講師：北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷弘志氏】

「チューブ滑り」と「雪上バナナボート」を実際に行い、どのようなリスクがあり、どのような点に気を付けながら利用者に提供すべきかを意見を出し合い交流した。



⑥「振り返り・まとめ」(60分)

【講師：北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷弘志氏】

1泊2日の活動を振り返り、考えたことや学んだこと、自施設で活用できそうなことなどをまとめた。

◆事業運営・企画のポイント

○青少年教育に携わる職員に求められる能力や技術を学び、それぞれの業務に生かせるように、理論と実技を中心としたプログラム構成とした。

○ナショナルセンターとして、地域の社会教育関係職員や関係機関に、質の高い研修の機会を提供できるように、それぞれの分野で著名な講師に指導を依頼した。



◆参加者の声

□講義だけではなく、実際にフィールドで体験ができた。

「安全管理」と「リスクマネジメント」、「危険」と「リスク」、あいまいになりがちだが、指導者がしっかり理解しておくことが大事だと改めて感じた。

□実際に体験やツアーに参加して参加者目線かつ指導者としての知識、ポイントを同時に分かることが大変勉強になりました。初心者でもすぐわかりやすかったです。

□実践と理論のバランスが良かった。活動後すぐのフィードバックが早く大変充実したプログラムだと思いました。

□自分では気づけないリスクを全体の意見から発見することができ、とても勉強になりました。

□冬の活動後の脱水症状、その対処法についてや、人の動きによるリスクと外的要因によるリスク、どちらもバランスよくみる必要があること等、全て勉強になりました。



◆事業の成果

①受講者が、それぞれの立場で青少年教育に携わる際に必要な知識や技術を身に付けることができ、教育活動に対する意欲をさらに高めることができた。

②北海道青少年教育施設協議会と連携して実施したことで、関係職員の資質向上に寄与することができた。

